

NYHA分類 記録シート v2

A4 / clinical record support

I-IVの判定根拠、暫定判定、再評価条件を1枚で整理

患者ID	評価日
評価者	場所

1. NYHA I-IV 早見 | どの身体活動で症状が出るかを確認

分類	判定の要点（公式定義の趣旨を要約）	臨床で確認するポイント
I	通常の身体活動で、心疾患による症状が出ない。	普段の生活レベルで症状が出ていないか。
II	安静時は楽だが、通常の身体活動で症状が出る。	平地歩行は保てても、坂・階段・早歩き等で症状が出ないか。
III	安静時は楽だが、通常より軽い活動でも症状が出る。	平地歩行や身の回りの軽い活動でも症状が出ないか。
IV	安静時にも症状があり、身体活動でさらに悪化しうる。	安静時症状の有無と、わずかな動作での増悪を確認。

ポイント：IIとIIIは「症状が出る活動が、通常の身体活動か、通常未満か」で分ける。特定の距離・階段数だけで固定しない。

2. 判定根拠 | 活動・量・条件を具体化

症状	☐ 息切れ ☐ 疲労 ☐ 動悸
	☐ 胸部不快 ☐ その他
活動	☐ 平地歩行 ☐ 坂 ☐ 階段 ☐ 更衣・整容 ☐ 入浴
	☐ トイレ ☐ 家事 ☐ その他
量	例) 50 m / 3分 / 1階 / 休憩1回
条件	例) ゆっくり / 手すり / 歩行器 / 荷物あり
症状が出た場面	例) 病棟内50 m歩行で呼吸困難
普段との違い	例) 入院前は100 m程度可能
自由記載	

3. 判定・再評価

NYHA判定	☐ I ☐ II ☐ III ☐ IV
☐ 暫定判定	☐ 再評価が必要
II/IIIで迷うときは「II-III」という独立分類にせず、現時点の暫定判定＋根拠＋未確認事項を残す。	
未確認事項	例) 入院前の階段・屋外歩行
次回確認する活動	例) 病棟内100 m連続歩行
再評価時期	例) 活動拡大後 / 状態変化時
共有事項	

4. 運動時反応（任意） | NYHA判定とは別に記録

Borg	-	HR (bpm)	-
BP (mmHg)	-	SpO2 (%)	-
症状	☐ 息切れ ☐ 胸部不快 ☐ 動悸 ☐ めまい		

※Borg・HR・BP・SpO2はNYHA I-IVの分類基準のものではありません。

5. 1行記録 | 分類＋根拠＋再評価

記録テンプレ
NYHA [I/II/III/IV]（暫定可）／症状が出た活動・量・条件／未確認事項／再評価条件
記載例
NYHA III（暫定）／病棟内50 m歩行で呼吸困難、立位休憩1回／入院前活動量未確認／家族聴取後に再評価